南の風 For Junior 195

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

For Junior 194のブレイク段階の続きです。理論的なことが続きますが、選手の皆さん、図解したりして学んでください。

原則②オフボールプレーヤーは合理的・効果的にサポートする

目的 ▶期待値の高いシュートを選択するために選択肢をつくり続ける

オフェンスにおいて、ボールマン以外のプレーヤー、すなわちオフボールプレーヤーの4人は合理的で、効果的にポジショニングをする必要があります。ボールマンのプレーを支える「サポート」です。このサポートがブレイクの段階で最も重要な要素になります。

●ブレイク段階でのサポート

合理的で、効果的なサポートをするために、オフボールプレーヤーはまずボールマンの心理やディフェンスの状況から、ボールマンが何をしようとしているのかを予測することが大切です。そのうえでボールマンの動きをよく見て、形勢に応じたサポートを瞬時に選択・実行します。

(1) いつでもボールを受けられるシングルギャップのポジション

いつでもボールを受けられるというのは、シングルギャップのポジショニングができるということです。例えば2ガード、両ウイングの場合（4人）、各プレーヤーの距離約5mがシングルギャップの距離になります。

ボールマンがディフェンスを突破できなかったとき、あるいはクリエイトの前は、オフボールマンはいつでもボールを受けられるシングルギャップのポジションをとります。シングルギャップをとることで、パスレシーブがしやすくなり、そのあとに続くグループ戦術（アクションを含む）を選択しやすくなります。

(2) 自分を守っているディフェンスがヘルプしにくいダブルギャップのポジション

ボールマンがクリエイトを終えてチャンスをつくろうとしているとき、あるいはチャンスができたときは、自分を守っているディフェンスがボールマンをヘルプしにくいダブルギャップ（約8m）のポジションをとります。例えばリングに向かって、左エルボーの延長上（3Pライン辺り＝スロットと呼びます）にボールマン①がいるとします。そのとき、ボールサイドのコーナーにいる味方③との距離、逆サイドのウイングの味方②との距離をダブルギャップにします。そうすることで、①がカウンター1on1やミスマッチによる個の優位性が見出せます。また、①が自チームのエースで相手チームのディフェンスが苦手なプレーヤーとの1on1になりそうな時です。

●オフボールプレーヤーのパニッシュメント

オフボールプレーヤーとヘルプディフェンスとの関係において、オフボールプレーヤーがボールマンに対してダブルギャップのポジションをとっているにもかかわらず、そのディフェンスがボールマンをヘルプした場合、そのヘルプに対する攻めをパニッシュメント（代償を払わせる＝こっちをとるとこっちを失うといったトレードオフ的な関係）と呼びます。次号にします